

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

帯学習で簡単な反復練習を通して、英語で受け答えをする練習を行った。繰り返し英語の表現を読んだり聞いたりする活動を通して、日常会話の聞き取りにおいて、成果が現れた。(第2学年)

(2) 課題

文法や語彙などの基礎が定着していないことに課題が見られた。既習文法や語彙は反復練習を通じて、知識を身につけていくことが必要だ。また、英作文において書くことを苦手としているため、反復練習や復習を通して、自分の力で文が書けるよう基礎力を定着させていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎では目標値をやや下回った。活用や一部のリスニング問題、「英作文」では目標値を大きく下回った。	/	/
第2学年	基礎、活用ともに目標値を下回っている。領域では「聞くこと」が得意である。	基礎・応用、領域別正答率はどの項目も目標値を超えている。日常会話の聞き取りが目標値を下回っている。(1学年)	/
第3学年	基礎、活用ともに目標値を下回っている。領域では「聞くこと」は目標値を上回っている。	基礎では目標値を上回ったが、活用の一部のリスニング問題と「英作文」では目標値を下回った。(2学年)	基礎では目標値を上回ったが、活用の一部のリスニング問題と「英作文」では目標値を下回った。(1学年)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簡単な日常会話内容を聞き取るのは得意だが、簡単な語順の定着が不十分であることがわかった。	リスニングにおいて目標値に近い数値が出ていたが、状況に応じて英文で答えることを苦手としている。	個別の結果を見ると、正答率の分布割合が極端であり、中間層が少ない傾向があることがわかった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙の知識・理解の問題で正答率が高いが、語順や文法においては学習内容が定着していないことがわかった。	対話の聞き取りでは、コミュニケーションを取りながら英語を聞いたり、簡単な文で答えたりすることを得意としているが、まとまりのある文章を書くことを苦手としている。	目標値を下回る結果になった。英語への苦手意識が強く、無回答であった生徒も見られた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニングの問題では目標値に近い結果が出ている。逆に長文の読み取りでは結果が芳しくない。	対話文の聞き取りを得意としているが、記述問題を特に苦手としている。	先の分析結果の繰り返しにもなるが、英語学習に対してなかなか主体的に取り組むことが苦手な生徒も一部存在している。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動を工夫し、英語を聞いたり話したりする場面を増やすことで、簡単な語彙の定着を図る。	英語を話したり聞いたりする活動を通して、得意とするリスニング力をさらに伸ばすことで、自信を身につかせるように促していく。	簡単な帯活動の積み重ねの中で、英語を話す自信につなげることで、興味関心を引きつける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動を活用し英語を聞いたり読んだりする活動を充実させることで、語彙の定着を図る。	帯活動を活用し英語を聞いたり読んだりする活動を充実させることで、文法のパターンに多く触れさせ、定着を図る。	話し合いの活動ではメリハリを持った活動を行うことで、生徒の興味関心を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨今の入学試験の内容も意識しつつ、英語を実際に耳にする機会を更に授業の中で増やしていく必要がある。	長文読解に取り組ませるために、教科書以外の英文を出題し、まとまりのある文章に慣れさせる練習を繰り返していく。	近くの学習目標を明確にすることで、英語学習への興味、関心を大きくさせ、主体的に学習に取り組む態度を持たせていく。